

宗教的マイノリティのディアスポラによる社会的環境の変化と音楽文化への影響に関する研究—イスラム教神秘主義アレヴィー派のオーストリアにおける事例

国立音楽大学大学院音楽研究科音楽研究専攻 博士後期課程 2 年 (助成時)
博士後期課程 3 年 (現 在)

鈴木 麻菜美

本研究はディアスポラという社会環境の変化が特定の集団の持つ文化に与える影響について、オーストリアのトルコ系移民コミュニティにおけるアレヴィーの文化活動に注目したものである。

アレヴィーalevi (=「アリ Ali に従う者」)とはトルコにおける宗教的グループの一つであり、同国における宗教的マイノリティでもある。中央アジアのトゥルクメンに端を発すると言われ、その信仰形態にはイスラム教シーア派をはじめとして、スーフイズム、シャーマニズムの影響があるとされ、その信仰において重要な要素である宗教儀礼ジェムやその中で行われる旋回セマー、アレヴィー音楽を含む独特の宗教文化や習慣を持つ。アレヴィーの多くはトルコ東部・南東部を中心に居住しているが、1960年代以降オーストリアをはじめとするヨーロッパ諸国に、ガストアルバイター *Gastarbeiter* としてその一部が他のトルコ系移民と共に移住しており、現在オーストリアには約 80,000 人のアレヴィーがいるとされている。

アレヴィーはトルコ本国において、習慣的に音楽と接することから音楽家や楽器製作者として活躍してきたが、その特異な宗教習慣などからマイノリティとして扱われており、現代においても「宗教団体」としては認められず、あくまで「文化的集団」として制限された活動を余儀なくされてきた。一方オーストリアにおいては、一部の協会が 2013 年に一宗教団体としてオーストリア政府文化庁の認定を受けるに至り、ヨーロッパのみならずトルコ本国に比べても先進的な環境を得ているといえる。他地域と異なる状況が生まれた背景には、多民族が交錯するオーストリアの制度や環境、アレヴィーたちによる社会的・文化的活動がある。またこうした文化活動はキリスト教文化圏であるオーストリアにおいて、トルコ系移民でありアレヴィーという二重のマイノリティである彼らの、文化的アイデンティティを維持し次世代へと継承する重要な役割を担っている。オーストリアにおけるアレヴィーの宗教儀礼や文化芸能、それに含まれるコミュニティの内外での宗教的・社会的意義やその特徴を探求することは、アレヴィーの宗教芸能の現代における変遷や、オーストリアと移民における文化活動との関係性を検討する上で意義があると考えられる。

具体的な問題提起及び調査内容については以下の通りである。①儀礼における宗教音楽及び宗教旋回の実践の展開：アレヴィーの儀礼ジェム *cem* におけるアレヴィー音楽（民俗楽器サズを伴奏とした宗教的な内容を含む歌詞の民謡）と旋回セマー *semah*（老若男女混合のグループによって行われる旋回。鶴や神の光などを表す様々な宗教的サインを含む舞踏的な動作と円によるフォーメーションなどによって特徴づけられる）がオーストリアのアレヴィー・コミュニティにおいてどのように行われているか、トルコ本国と異なる環境下でどのような展開や本国との共通点があるのかを、アレヴィー・コミュニティの協会（デルネキ）における儀礼の観察とインタビューにより調査した。②次世代への音楽・舞踊を含む文化の教育と継承：オーストリアで生まれ育った移民 2 世・3 世への

宗教文化の継承と教育について、アレヴィー協会や義務教育課程における宗教文化、音楽文化の教育活動の観察と教育者及び生徒へのインタビューを行った。③移民コミュニティにおけるアレヴィーの音楽家としての役割：オーストリアにおけるトルコ系移民の音楽や舞踊など文化活動の場について調査するため、上記のデルネキのほか、結婚式、ライブハウスやカフェなどの公共の場(=“public ghettos”)での観察及び音楽家・芸能者へのインタビューを行った。

本助成金による上述の研究及び調査の結果をまとめると以下のようになる。○オーストリアで行われているセマーについては、シンプルな身体動作によるタイプ A と複雑な身体動作及びフォーメーションと華やかな衣装によりパフォーマンス化されているといえるタイプ B が見受けられ、それぞれの効果と目的により双方が実践されている。前者の画一化されたセマーは簡単に会得可能で、トルコよりも行われる回数が縮小されている儀礼（トルコ：週に 1・2 回→オーストリア：年に 4・5 回）の中においても、どの世代もが回り共有することが容易となっている。タイプ B はタイプ A に見られるような儀礼の機会の減少などによってセマーのレパトリーが維持されなくなること危惧した信徒によって設けられたセマーを学ぶ場で細部まで会得されたもので、セマーの担い手である若年層への宗教的伝統の継承に加え、衣装やパフォーマンス性が意識された身体動作やフォーメーションの統一性により、担い手と聴衆である信徒の宗教的アイデンティティであるセマーの再認識やセマーを中心としたコミュニティの一体感の強化を促す効果があると考えられる。○オーストリアのジュムにおけるアレヴィー音楽は伴奏楽器、演奏される回数、歌われる言葉や詩の内容などはトルコでの伝統を維持しているように見受けられる。アレヴィーのジュムで用いられる音楽は民衆に根差した民俗音楽に類するもので本来世俗的なものとして扱われるものであるが、ジュムで演奏される場合においては「宗教的な場」における「宗教的な音楽」として他の民俗音楽や民謡とは線引きをして意識され、ディアスポラによって文化的・音楽的環境の変化があるなかでも、維持すべき宗教的伝統として扱われていることがわかった。また、アレヴィー音楽がそのように変化せずにいれる背景には、楽譜という多くのレパトリーを正確にオーストリアに持ち込む手段があったこと、アレヴィー音楽が移民たちの出身地であるトルコ東部を中心に庶民に根差した民謡や民俗音楽であり、維持する人材に事欠かなかったことがあげられる。○移民によって形成された多民族国家であるオーストリアにおいては、宗教は移民の文化的アイデンティティとして重要視される傾向にあり、調査で観察された義務教育におけるアレヴィー文化の授業やその課外活動として行われる「子供のジュム」などの幼少時からの宗教文化実践の機会はオーストリアの社会的環境あってこそであると考えられる。○アレヴィーのトルコ伝統音楽、こと民俗音楽の供給者、教育者としての役割はオーストリアまで持ち込まれており、オーストリアという全く異なる社会的・文化的環境下においては、アレヴィー・コミュニティのみならず、トルコ系移民コミュニティ全体において、伝統的な音楽文化や結婚式などの文化的習慣を維持するうえで、その意義や役割、活動の場はさらに大きいものとなっている。



アレヴィーとかかわりの深い撥弦楽器サズ（あるいはバール
ラマ bağlama)

(報告者撮影、ウィーン、2016)